

注記事項 [第一号勘定]

[貸借対照表関係]

I. 有価証券関係

1. 満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位:円)

	種 類	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債・地方債等	14,437,945,361	14,880,075,000	442,129,639
	小 計	14,437,945,361	14,880,075,000	442,129,639
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債・地方債等	7,686,469,970	7,580,790,000	-105,679,970
	小 計	7,686,469,970	7,580,790,000	-105,679,970
合 計		22,124,415,331	22,460,865,000	336,449,669

2. 満期保有目的の債券の今後の償還予定額

	1年以内	1年超5年未満	5年超10年未満	10年超
国債・地方債等	1,299,817,866	9,841,559,227	10,783,038,238	200,000,000
合 計	1,299,817,866	9,841,559,227	10,783,038,238	200,000,000

II. 固定資産の減損関係

1. 減損の兆候が認められた固定資産の用途、種類、帳簿価額等の概要 (単位:円)

資 産 名	鉄 鋼 館	万 国 橋
用 途	展 示 館	連 絡 橋
種 類	建 物	構 築 物
帳 簿 価 額	139,084,324	14,963,842

2. 認められた減損の兆候の概要

固定資産が使用されている方法について、現状において当該資産の使用可能性を著しく低下させる変化が生じていることから、減損会計基準「第3減損の兆候」第2項(3)に該当し、減損の兆候が認められる。

3. 減損の認識をしない理由

鉄鋼館及び万国橋については、使用する合理的な計画を有し、改良を加えることにより全部の資産の使用を予定しているため、減損の認識をしない。

[キャッシュ・フロー計算書関係]

資金の期末残高の貸借対照表科目別内訳

現金及び預金	1,043,136,149 円
定期預金	△ 600,000,000 円
資金期末残高	443,136,149 円

[行政サービス実施コスト計算書関係]

1. 引当外退職給付増加見積額

引当外退職給付増加見積額は、国及び大阪府からの出向職員にかかるものであります。

2. 機会費用の計上方法

政府出資金及び大阪府出資金の機会費用の計算に使用した利率は、国債利回り等を参考に1.650%としております。

[重要な債務負担行為]

該当なし

[重要な後発事象]

当機構と運営委託契約を締結している株式会社エキスポランドが運営するエキスポランドは、平成19年5月5日に遊戯機器の事故が発生したことにより営業を休止しております。

当機構は、運営委託契約に基づきエキスポランドの営業に伴って運営収入を得ておりますが、今後の展開によっては、収入の減少が予想されます。しかし、現時点でその金額を見積もることは困難です。